

今号の主な記事	主張 混合介護を考える	2面
	・支部地区だより ・社保情報 国の指定難病 新規追加	3面
	メディカル eye 「抗血栓薬、勝手に止めると悔い残す！」	4面



(昭和41年5月10日第三種郵便物認可)
 発行所 東京保険医協会
 〒160-0023 新宿区西新宿3-2-7 KDX新宿ビル4階
 電話 (03)5339-3601 / FAX (03)5339-3449
 協会ホームページ <http://www.hokeni.org>
 月3回 5・15・25日発行 1ヵ月900円
 発行人・小形歩

【会員の購読料は、会費に含まれております】

MRワクチン 任意接種助成 足立区・板橋区が拡充・新設

表1 23区におけるMRワクチン未接種児への任意接種助成制度の概要(2016年度)

子どもの年齢	1歳		小学校1年生～			
	定期接種	任意接種	任意接種			
定期・任意の別と接種漏れケース	任意接種	任意接種	任意接種			
各自治体の助成内容	1期を打ち漏れた子	1期を打ち漏れた子	①1期も2期も打っていない子 1回目 2回目	②1期は打ったが2期を打ち漏れた子	③2期は打ったが1期を打ち漏れた子	
A) 未接種回数分(最大2回まで)を補助	○	○	○	○	○	○
B) 1期終了後、2期終了後、それぞれ1回分を補助	○	○	×	○	×	×
C) 1回分のみ補助	○	○	○	×	○	○
D) 1度も打ったことのない人のみ1回分補助(足立区→制度拡充へ)	○	○	○	×	×	×
E) 助成制度なし(板橋区→新設へ)	×	×	×	×	×	×

A) 目黒区 / 千代田区 / 新宿区 / 台東区 / 墨田区 / 大田区 / 豊島区
 北区 / 荒川区 / 練馬区 / 葛飾区 / 中央区 / 渋谷区 / 江東区
 B) 文京区 / 中野区 / 杉並区 / 江戸川区 / 世田谷区 C) 品川区
 D) 足立区(制度拡充→Aへ) E) 港区 / 板橋区(2017年度導入へ)
 ※各区の詳細い対象年齢、条件については協会ホームページ「資料室」参照

表2 足立区・MRワクチン任意接種助成制度の内容(拡充)

	変更後(2017年度)	現行
対象者	対象ワクチンを一度も接種していない又は一度しか接種したことがない者で、かつ麻疹又は風しんに罹患したことがない者	対象ワクチンを一度も接種していない、かつ麻疹又は風しんに罹患したことがない者
助成回数	対象ワクチンを一度も接種していない者には2回まで、一度しか接種したことがない者は1回まで	一人1回
年齢	2歳～高校3年生相当まで(2期接種期間を除く)(変更なし)	
接種費用	全額助成(変更なし)	
接種場所	足立区内の指定医療機関(変更なし)	
備考	事前に各保健センター等または保健予防課の窓口で、母子健康手帳持参のうえ、該当予防接種の予防票の交付を受ける(変更なし)	

表3 板橋区・MRワクチン任意接種助成制度の内容(新設)

対象者	第1期及び第2期、又は両方の定期接種が完了していない者で、接種日現在、板橋区に住民登録のある者
助成回数	1人2回まで
年齢	2歳～19歳未満(2期接種期間を除く)
接種費用	麻疹風しん混合ワクチン 1,000円 麻疹風しん単抗原ワクチン各 500円
接種場所	板橋区内の指定医療機関
備考	事前に区予防対策課へ連絡の上予防対策課窓口で手続きが必要

表4 板橋区・B型肝炎ワクチン4月～7月生児への延長措置

対象者	2016年4月1日～7月31日生まれの子
助成回数	1人1回まで
延長期間	2017年4月1日～7月31日まで
備考	事前に区予防対策課へ連絡の上予防対策課窓口で手続きが必要

同じく任意接種助成制度のない港区に対して、協会は2月20日に陳情書を提出し、各会派へ趣旨説明を行った。区議会でも多数の議員から質問が上がったが、現時点で区として制度導入の動きは見られない。港区は、麻疹風しん接種率が1期・2期ともに都内最下位の水準であるうえ、人口流動が激しく、外国人の流入も多い。23区で唯一、任意接種助成制度を持たない区となったことも踏まえ、協会は引き続き制度設置を求めていく。

東京都は麻疹・風しん対策として、MRワクチン未接種児への任意接種助成事業を取り組む区市町村に

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者へ1回分のみ助成」としていたため、現在実施中の21区中、最も要件の厳しいことが協会の調査で明らかとなった(表1)。

現行制度のままでは懸念される2期接種漏れに対応できないことから、協会が担が設定されていることが

MRワクチンの任意接種助成制度がなかった板橋区は、医師会からの要望もあり、この4月から同制度の導入が決まった(表3)。た

港区 23区で唯一、助成制度なし

2期接種漏れの懸念 協会、都内自治体へ任意接種助成制度の充実を要望

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者へ1回分のみ助成」として

板橋区 4月から助成開始

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者へ1回分のみ助成」として

足立区 助成対象者・回数を拡充

2期接種漏れの懸念 協会、都内自治体へ任意接種助成制度の充実を要望

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者へ1回分のみ助成」として

足立区 助成対象者・回数を拡充

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者へ1回分のみ助成」として

足立区 助成対象者・回数を拡充

本紙12月25日号でも報告の通り、昨年11月に協会が実施した会員アンケートでは、都内7割の小児科・内科の医療機関でMRワクチンが不足し、定期接種を打ち終えない可能性が5割にのぼる事態となった。協会は国に対して定期接種(特に2期の延長措置や安定した流通体制の確保を求める)一方、自治体に対しては未接種児へのフォローアップ制度の早期導入・拡充を要望。来年度から足立区が対象者・回数を拡充、板橋区が新たに助成制度を開始するなど、一定の成果を得ることができた。

2期接種漏れの懸念 協会、都内自治体へ任意接種助成制度の充実を要望

足立区 助成対象者・回数を拡充

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者へ1回分のみ助成」として

足立区 助成対象者・回数を拡充

長谷川たかこ区議(民進党)が平成29年第一回足立区議会定例会代表質問、平成29年予算特別委員会等で3度にわたり取り上げ、区医師会からも要望書が提出された結果、区長指示で見直しが決まった。これを受け3月14日の厚生委員会にて、協会の要望どおり、対象者の拡充と最大2回までの助成が実現した(表2)。同議員によると予算措置が必要な施策を、議員提案でこれだけ短期間に通すことは極めて珍しいという。医療現場の不足の実態と接種漏れに対する危機感が区へ伝わった結果といえる。

この記事はホームページでも公開しています。

スマホの方はこちらから⇒

<http://www.hokeni.org/docs/2017032700028/>